

第7回多賀城市子ども・子育て会議録（要約版）

□日 時 平成26年12月2日（火） 13時30分から15時30分

□場 所 多賀城市役所3階 第1会議室

□出席者

委員：増子正会長、磯部裕子副会長、根來宣昭委員、鎌田俊昭委員、中鉢義徳委員、菊地智恵子委員、黒川恵子委員、小柳明子委員、山本宣恵委員、大滝淳委員、伊藤光子委員

事務局：菅野保健福祉部長、片山保健福祉部次長、吉田こども福祉課長、伊藤太陽の家園長、平山子育てサポートセンター所長、佐藤こども福祉課長補佐、小林こども福祉課主幹、石田こども福祉課副主幹、㈱ぎょうせい

欠席委員：川崎秀和委員、相澤日出夫委員、河野優子委員、服部典子委員

□次 第

1 開会あいさつ

2 議事

(1) 審議事項

① 第二期次世代育成支援行動計画の素案について

3 その他

4 閉会あいさつ

1 会長あいさつ

皆さんこんにちは。あっという間に師走を迎えてしまいました。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

昨日家に帰りましたら、私が住んでいるところの町内会が、来年で50周年を迎えるということで、記念誌をつくるので、その記念誌に寄稿してほしいという手紙が入っておいりました。子どもの頃を改めて振り返ってみると、この子ども・子育て会議でも子どもの居場所づくりということが出ていますが、私が住んでいるところは、昔は畑と周りは山でした。よく山に行って、木の上に小屋みたいなものをつくって遊んでいて、暗くなってくると、その辺の畑から帰って

くるおじさんによく怒られたということ思い出しておりました。

私の子どもはもう社会人になって働いていますが、私は未だに子どもたちと遊ぶ活動をしておりまして、子どもたちと一緒に音楽会をしてみたり、それから小学校を借りて学校に泊めてみたり、今週土曜日には、航空会社のパイロットの方たちが折り紙、紙飛行機をつくって飛ばして子どもたちと遊んであげていると聞きまして、午前中は地域の方と一緒に綱引きをやって、午後はその紙飛行機をつくって飛ばしてみようかなと考えていました。その中で、もしかすると何か自分の才能に気がつく子どもたちもいるかな、なんていう格好のいいようなことを言いながら、要するに自分も一緒に遊びたいだけです。

多賀城の子どもたちが大きくなって昔を振り返ってみたときに、多賀城はよかったなど、自分が育ったふるさとに愛着が持っていただけるような、そんな次世代育成の計画をつくっていきけるといいなということを考えながら、本日来たところです。

今日は、審議事項は1件ですが、非常に内容が濃いものですので、皆さんのご意見いただきながら進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

2 議事

○会長 それでは議事に入らせていただきます。

1 番目の議事です。審議事項、第二期次世代育成支援行動計画の素案について、事務局から説明をお願いします。

(1) -① 第二期次世代育成支援行動計画の素案について

資料に基づき事務局が説明

【質疑・意見交換】

○会長 ありがとうございます。

ただいま事務局から次世代育成支援行動計画の素案について説明をいただきました。前回の骨子案から変わったところや追加されているところは、委員の皆さんからご意見を頂戴して、素案の29ページ、基本方針の1の1の部分に家庭における教育・保育の充実が追加された点、それから1の3に福祉教育の充実が追加されたという説明がありました。また、第4章の31ページからの策定イメージとして、事務局から提示された書き込みイメージという追加資料のスタイルで策定していきたいという事務局からの提案がありました。

同じく追加資料で、第6章の地域ネットワークの図について、前回、委員の皆さんから頂戴したご意見を反映して、図を修正したということです。前回までは子どもと家庭というのが一

体化していましたが、そうではなくて子どもを核として、家庭も役割を持って子どもにずっと関わり続けるというイメージの図に変わっているという説明がありました。

事前に委員の皆さんにはこの素案が送られておりますので、目を通していただいていると思います。ただいまの説明とあわせて素案の中身についてこのようなイメージ、構成でよろしいかご意見を頂戴できればと思います。いかがでしょうか。

今日出し切れなかった意見については、事務局のほうから説明がありましたが、12月8日までに、素案に関する意見書という用紙がございますので、これで事務局へお知らせいただければよいということです。書き込みのイメージについてはいかがでしょうか。

○委員 資料1の72ページで、前回の案から、子育ての第一義的な責任というのを家庭のところから抜いたのは何か意味があったのでしょうか。

○会長 図のところですね。

○委員 はい。

○会長 事務局お願いします。

○事務局 第一義的な責任という表現がわかりにくいという意見が多数ありましたので、図より外して、左側のそれぞれが担う役割のところでもわかりやすく表現したつもりでした。

○委員 やはり子育ての第一義的な責任は親であるというのは自明のことだと思っているので。

○会長 本日配られた追加資料の図の家庭のところから、第一義的な責任という文言が取られているとうことですね。資料の左側に地域社会においてそれぞれが担う役割とありますが、家庭が一番上にきていて、そこを讀んでみると子どもが成長していく上で家庭は大切な役割を担っています。家族のふれあいを通して子どもが基本的な生活習慣や生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやり、基本的倫理観、自尊心や自立心、社会的マナーなどを身につけていく上で重要な役割を果たします、というこの部分が第一義的な責任として家庭の役割のところに記載されているということでよろしいですか。

○事務局 今、委員がおっしゃったのは資料の72ページの図から第一義的な責任という文言が消えたということですね。

○委員 というのは、最近、親が子育てを放棄しているようなことが多いです。子どものお迎えをおばあさんとおばさんと母親の3交代でしている方で、みんな責任をなすりつけて迎えに来なかったということもあります。一義的に本当は家庭が大事なのにと思っているので気になりました。

○事務局 その家庭教育の重要性というのは、先ほど説明しましたけれども、追加資料の下の

子ども・子育て会議の思いというところに家庭教育の重要性について記載したいと思っております。

○委員 今の内容に関連してですが、私の勘違いなら申しわけないですけども、子ども・子育て関連3法に第一義的な責任者というのは謳ってありますよね。保護者が保育の第一義的責任者というのは、3法のどこかに出ていたと思います。そういう意味で事務局は敢えて外したのかなと思ったのですが。

○事務局 今、言われたとおり、子ども・子育て支援法の最初の趣旨に、家庭が第一義的な役割を担うということが記載してあります。この図から外したのは、先に説明したとおり、第一義的という言葉が伝わりづらい表現なので、別な言葉に言い替えられないかということで、ここからは外したのですが、委員からご指摘いただいたとおり、法の趣旨でもございますので、前段でありますとか、そもそもの趣旨でありますとか、そういうところに法律を引用するような形で盛り込むことも可能かと思っておりますので、検討していきたいと思っております。

○会長 例えば図を見ていくと、学校には生きる力を育む教育や、個性、能力を生かす教育ですとか、知人、友人、隣人には地域ぐるみの見守りなどが書かれているわけですが、その家庭というところの下に、一義的という言葉がわかりにくいということですので、別の何かわかりやすいような言葉、例えばしつけだとか、簡単でわかりやすい言葉を図の家庭というところの下に記載するのも良いかもしれませんね。いかがでしょうか。

先ほど事務局からも提案がありましたが、法律に出てくるところを、どこか前段にほうに入れていただくことにして、この図の家庭というところの下に少しわかりやすく、追加資料の左側の役割に書いてあるようなことを記載すると良いのではないのでしょうか。

○事務局 わかりました。

○会長 よろしいでしょうか。

○事務局 前回の会議の中で、委員の皆さんから、やはり家庭が基本だということが抜けているのではないかという話がありまして、今回その基本施策の展開の中の一番最初に持ってきました。計画書の25ページに基本の理念がございまして、その基本的な考え方の中段に、家庭が第一義的責任ということを書いているのですが、前回の委員の皆さんのお話からすると、この部分はまたという言葉でつなぐのではなくて、むしろ最初に持ってきたほうが良いのではないかという話も事務局の中ではしていました。先ほどこの部分の文章については変更ございませんという話をしたのですが、そういった前回の皆さんのご意見も含めて、そこの順番を変えるということもご提案しようと思っていたところでしたので、あわせてご検討いただければと

思います。

○会長 ただいま事務局からの補足説明がございましたけれども、皆さんいかがでしょうか。

○委員 普通に文書で書いてあると、こういうことが書いてあるのだなとは思いますが、やはり絵で書いてもらおうと非常に頭に入りやすいので、会長が言ったように、図の下のほうに何か書いてもらおうとイメージが入ってきやすいので、会長の提案のようにやってもらえるといいかと思います。

○会長 皆さん、よろしいでしょうか。それでは図の家庭というところにわかりやすい言葉を幾つか入れていただくということで、そのようにさせていただきます。

他にご意見はいかがでしょうか。例えば、追加資料の書き込みイメージについて事務局から提案がありましたが、このスタイルについてでも結構です。前回の素案との違いというところで見えていきますと、追加資料のA3判の書き込みイメージですが、行政における取り組みの方向性というのが1番から6番まで書かれていて、そのあとにその地域の関係団体などの取組例ということで書いてあります。行政はこういったことに重点的に取り組みますので、家庭でもこのようにしていきましょう、それから地域でもこのようにしていきましょう、それから、子育て関係の事業者はこのようにしていきましょうという、それぞれがどんな取り組みをしていけばいいのかというのをわかりやすく事務局から提示いただきました。

例えば家庭では、家族そろっての食育的なことや、今社会問題になっておりますが、ゲームやインターネットを利用する時間のルールを決めましょうですとか、非常にわかりやすい取り組み例がこのように書かれていて、皆さんから家庭での教育がすごく大事だということを受けての反映ということだと思います。

それから、保育の質のことが再三言われていましたので、子育てに関係する事業所の方々は、企業の社会的貢献活動などを通じて、保育サービスの質を高めていくといったことも書かれています。非常にわかりやすい表現になっているという印象ですが、これについては皆さんいかがでしょうか。レイアウト的な構成の仕方、そういったことでも結構です。

それから、前回提案させていただいた福祉教育の充実というのをに入れていただいたのですが、その書き込みイメージのところの文章を見ると、小さな頃から障害の有無にかかわらず、共に過ごし、活動する機会の拡充を図ることで、お互いの違いを個性として認め、尊重する気持ちの醸成を図ります。また、多くの市民がボランティア活動など、さまざまな交流体験を通じてというようなことが書いてありますが、私の印象として、障害ということに余りにもこだわり過ぎているのかなというイメージを受けました。例えば最初の2行を外していただいて、次の

「また」も取って、多くの市民がボランティア活動などさまざまな体験を通して、子どもの個性や障害、それから高齢者などに対する理解を深め、受け入れていくことを促進しというような文言にしてもらおうと、障害に特化しないで、子どもからお年寄りに対しても優しい心が醸成されるということになるかなと思います。うまくその辺を書いていただければと思います。

いかがでしょうか、そういったイメージのことも結構です。あとは26ページの基本理念については6件の提案をお寄せいただいたということで、これは事務局のほうで調整していただくということよろしいでしょうか。

○事務局 調整させていただきたいと思います。

○会長 第4章についてのご意見を今いただいているところですが、余りにもボリュームが大きいですので、まだ意見が出し切れないう状態かとも思いますが、いかがでしょうか。

○委員 すみません、この計画をどのように捉えたらいいのかなと思ひまして。このようなことを考えていますという計画で、何々をしますという計画ではないのですよね。例えば施設を何か所つくりますとか、例えば学童保育の問題などもすごく大変な状況になっていますが、何とかいい方向にというようには書いてあるのですが、事業計画というのはそういうものなのかなというのが1点と、それから24ページの子ども・子育て支援新制度への円滑な移行というところで、市民への周知が不可欠ですと書いてあるのですが、それは本当にそうだと思います。この計画を見たときに、そのような周知をしていくスケジュールが何もないなと思っていて、やはり市民の方がこういうことを本当に一緒にやっていくとすれば、そういうことがとても大事だと思っていて、市民への周知というスケジュールは計画などが無いのかなという2点です。

○会長 この計画がそのような性質のものなのかということが1点と、それから市民への周知をどのようにしていくのかという2点です。事務局いかがですか。

○事務局 それではまず、計画の位置づけですけれども、資料の2ページをご覧くださいますと、計画の位置づけというのが書いてあります。その網かけになっている部分、第二期多賀城市次世代育成支援行動計画、これが今日ご審議いただいている内容になっておりますが、これは誰もが次世代の育成のために行動をしていこうという理念に近いような計画になっています。ですので、行政が何をすることよりも皆さんがそうやって取り組んでいこうという方向性を示す計画になっております。

その中で、その左側に多賀城市子ども・子育て支援事業計画と記載しておりますが、これが保育事業等の目標を定めた推進の筋道を示したもので、こちらは第5章として、前々回までご審議をいただいた事業計画を盛り込んでおります。ページで言いますと57ページからです。こ

れまでご審議いただいた事業計画分をここに含めて、両方を一体的に策定しているということで、事業計画部分は原案のご了承をいただきましたので、次に全体の理念の方向性ということで、現在ご審議をいただいているところです。そういった2つの性質を併せ持った計画です。

次に周知につきましては、新制度の周知というのは大切なことだと認識しておりますけれども、どのぐらい皆さんが現行制度を知っているかによって、興味があるところ、それから説明の内容も大きく異なってきます。説明会を開催するという要望がございましたが、保護者の皆様方には個別に窓口等で手続の際にご相談をさせていただいて、11月中だけでも300人以上の方にご説明をさせていただいたところです。

なお、今後まだ明らかになっていない部分などもありますので、継続的にそのような機会を検討していく、それから様々なメディアを活用して説明をしていくということを検討していきたいと考えております。

○会長 委員よろしいでしょうか。

それでは引き続き、29ページの第4章から、それから第5章は事務局からも量の見込みということで説明がありましたが、これは前回までに皆さんから了承いただいておりますので、第6章、71、72、73ページについてご意見を頂戴できればと思います。

○委員 73ページのところなのですが、ここではPDSサイクルになっているのですが、いろいろ考え方はあると思いますが、見直しをするのであれば、PDCAサイクルなのかなと思うのですが、敢えてこのPDSサイクルにした理由はあるのですか。説明の最後に必要に応じて計画の見直しを行いますと表記されているのであれば、PDCAサイクルのほうが良い気がするのですがいかがでしょうか。

○事務局 お手元にお配りしております第五次多賀城市総合計画の37ページをお開きいただきたいと思います。

今、委員からお話がありましたとおり、PDCAというやり方ももちろんございます。本市ではこの総合計画の際にPDSという手法でやるということになりましたが、実質的にはPDCAと変わらない手法で、アクションをプランに落とし込んでいるという形になっておりますので、ご理解を頂戴できればと思います。

○委員 わかりました。

○会長 その他いかがでしょうか。

もし無いようでしたら、お気づきの点などを、今日お配りいただいております素案に関する意見という12月8日までに事務局に提出していただく様式がございますので、その様式でご意見

をいただくということにさせていただいてよろしいでしょうか。

<はいの声>

それでは、そのようにさせていただきたいと思います。

今日は会議が非常に早く進んでいまして、まだ1時間経たない状態ですので、基本理念について、皆さんから意見いただいてもよろしいですか。6件の提案を出していただいておりますので、事務局のほうで今度調整していただくための参考としてご意見をいただければと思います。

基本理念について、資料の28ページに6件出ている中でこれが良いのではないかということでもよろしいですし、これとこれ合わせたら良いのではといったことでもいいです。

○委員 表の一番上のキャッチフレーズを出させていただいたのですが、親が自信を持って楽しく子育てができるようにと書いたのは、現在多賀城市で、つながる子育て多賀城という子育てサロンを月4回やらせてもらっているのですが、その中で皆さん、情報はインターネットで仕入れるしかないなど、いろいろ不安を抱いていて、育児不安や子育てに関する話を聞かれる若いお母さんたちが多く、ここに来るとほっとするかお茶が飲めてお菓子食べながら、楽しく過ごせるからすごくありがたいという話を聞いて、やはりお母さんがハッピーであれば、育児でイライラしなくなって虐待にもつながらないですし、余裕を持って子育てができれば色々なことでいい循環になるのかなと思います。今、地域の子育てのつながりも全然ない中で、一人でネットの中で情報を得て、子育ての「子」は孤立の「孤」と言われていますが、そこをどう打破すればいいのかというのは、やはり転勤族が多い中で、親と何年かサロンやサークルをやったとしても、すぐにリーダーの立場の方が転勤していなくなってしまうということもあるので、そういったリーダー的な存在を育てていくことも必要だとは思いますが、不安になっているお母さんたちが、楽しく育児できるようなサービスの提供というか、多賀城はこんなに転勤族が多くても、こんなにしっかりとした子育ての支援のサービスが整っていますよということが謳えれば、若いお母さんたちの不安が取れるのではないかなと最近、日々思っています。

○委員 そういったサロンなどに来ているお母さん方というのは、ある程度意識が高い方々だと思っているのですが、私も子育て支援を20年やってきて、この楽しく子育てというのは、最近すごく勘違いされている部分が多いなと思います。楽しく子育てを自分の都合のいい子育てという感じに思われている保護者の方が見受けられます。今、そのサロンに来ているような保護者の方というのは、自分で意識を高めようとか、何かしていこうという方たちがいらっやしているのかなと思うと、片やそうではなく、自分がきらきら輝いていけばいいというような

ところにだけ意識がいく方たちも現状として多くなっています。国でもきらきら輝くというところを主張してしまっているのも、そもそも子育てというのはそんなにきらきらしなくても、その一定の期間は、子どもを中心に考えて動く中で自分としての楽しみを見出すとか、楽しく子育てということをそういう意味合いにとってくれるといいなと思います。何か楽しく子育てという感じだと、お母さんが綺麗でいましょうとか、子育てしながらでも化粧もちゃんとして、ヒールも履いてというイメージに走りがちなどころもあるなというのを見ているので、26ページの意見の2番目やその後にあるような子どもの生きる力を育むとか、子どもが楽しい、子どもが笑顔でということをやはり親がサポートしなければいけないというところが入ると良いのかなとお話を聞いて思ったところなんです。誰が主なのかというのが見えなくなっている保護者の方が増えているということを委員の皆様も実感していると思うので、そういったことが言葉の中にも入ると良いと思いました。

○委員 私もキャッチフレーズですから、短くて的確な言葉がいいと思います。3番目の笑顔満開、次の世代のために、元気に子育て・笑顔で成長のような、誰が中心、主役かという言葉が入れば良いと思います。

○会長 ありがとうございます。他に皆さんいかがでしょうか。

○委員 私はメインフレーズというのは、その到達点というか、目的なのかなと思って、3番目の意見を出させてもらったのですが、まず到達点というのは子どもさんなのかなと考えましたので、まずは笑顔だけではなくて、笑顔が満開となるようにという意味を込めました。

その到達点に達するために、サブフレーズとしては、その具体的な方向性ということで、楽しく子育てという言い方もあるかなと思ったのですが、それよりも心も体も親がまず元気な気持ちで子育てをして、親も子どもも笑顔で成長して欲しいという思いを込めて、次の1行を入れて、その下は安全・安心、みんなで支援ということで、多賀城はみんなで支援するから子育てしやすく大丈夫だよというような思いを込めて、このようなフレーズを入れさせていただきました。

○会長 ありがとうございます。

○委員 例えば保護者の方との懇談会などを行うと、保護者の方が、自分は子どものことをすごく怒ってしまうけれども、皆さんはどうですかというのを言われるのですが、みんながそうだよと言うと、みんなそうなんだと、今日は安心しましたと言っていて、親が自信を持つことはすごく大事なことだな、自信というのも色々な関わりの中で感じることだと思うのですが、そのような関係ができていくといいなと思います。あとは、子どもは子ども時代を将来のため

に何か準備するという時期ではなくて、やはり今の時期を子どもがうんと楽しいなと思う日々を積み重ねてあげたいと思っているのですが、それをみんなで支え合うというか、親も一緒に楽しんだり悩んだりしながらも一緒に育ち合うということができる街だといいなと思っています。

ですので、どれが良いということはないのですが、キャッチフレーズとしてコンパクトにまとめて思いを詰めることは本当に難しいなと思いつつ、いい言葉が見つかりませんが、親も自信を持って、子どもも楽しくて、そんな時代があって良かったなと思えるような街になると良いなと思っています。

○会長 ありがとうございます。

○委員 私はこのキャッチフレーズというのは書けないなと思いました。理由は子育ての環境の背景、根がないからです。ですので、キャッチフレーズで心情を盛りたてるということは、非常にやりにくいと思います。根がないということは家庭崩壊の時代だと思います。この資料を読んでいると、史都多賀城にふさわしい子どもたちを育てると書いてあるところがありますが、それは親から自分の子ども、自分の子どもからまたその自分の子どもに伝えていくというところに、育てるという一つの根があるわけです。それが家庭崩壊という背景があるために、どのくらい家庭の中で子どもを育てるという力が育くまれるのかなということを考えていました。

ですから、おじいちゃん・おばあちゃんが、お父さん・お母さんが一生懸命働いて育ててくれたという話をするにしても、おじいさん・おばあさんが一つ家庭の中にいません。そうすると人間というのはずっと世代ごとにつながって行って、それで一つの家庭や社会ができるというその心が、子どもたちの中に湧いてくるような状況ではないわけです。ですので、キャッチフレーズというと、まやかしみたいに感じられて、つくれなかったというのが実際です。

例えば野生の動物、例えばタカでもいいです、あるいはハトでも何でもいいのですけれども、子どもを一つの巣の中でひとり立ちできるところまできちんと育てて、それで飛ばしたときにはもうひとり立ちできるような状態で羽ばたいて出ていくということがあります。人間にはその根となる巣がないです。そういった巣がない状況の中で、子育てということにベストを尽くしてしていくとするならば、本当に親子が家庭できちんとまとまって、そして親が責任を持った子どもの育て方をするという決意、強い意志というものが欲しいなと思います。

けれども、今、政府で努力していることに反するようなことを話してしまって申しわけないのですが、そのしっかりまとまって子どもを育てなければならないという環境から、親が労働

に駆り出されています。子どもは家に帰ってきてても親がいないわけです。おじいさん、おばあさんがいればまた別ですが親がいない。そうすると新築の家にはばかり6軒続けて放火した青年の記事が出ていましたが、その記事を読むと、青年の育ちというのは、家に帰ってくるとお父さんもお母さんも誰もいない、そこへ帰ってきて非常にむなしい人生を送っていて22歳を迎えているということでした。そのような子どもの姿を見ていると、家庭というものはしっかり絆をつくっていかなければ、つくれるように私たちが頑張らなければ、このプランのようにするというのは本当に難しいと思っておりました。ですからキャッチフレーズを私にはつくれませんでした。家庭の崩壊を食い止められるようなことを、今度の活動を通してできないかなと思っています。

○会長 ありがとうございます。

○委員 今、委員が言われたとおりでと思います。今一番問題になっているのは、家族の力や地域の力が弱くなってきていることですが、それは子どもには関係のないことで、子どもが生きる力をどのように地域、あるいは家族で育てていくかということだと思います。それにはやはり乳幼児期の保育・教育が大事なことは皆さんご承知のことだと思いますが、子どもは色々なことを体験、経験しながら学習していくので、そういったことを家族、あるいは地域社会、あるいは保育所、幼稚園、認定こども園等でしっかりやっていくことが必要だと思います。そのためには、子どもの生きる力を育む家族力のような、そういったキャッチフレーズが適していると思いました。

○会長 ありがとうございます。

○委員 私は、下から2番目のキャッチフレーズを提出しました。多賀城は子どもの未来のためにどのように向き合っていくかということで、キャッチフレーズは必要だと思います。特にインパクトが強くて、できるだけ簡単明瞭に伝わる内容が一番キャッチフレーズとしてふさわしいと思います。子どもたちがずっと笑顔でいられるように、地域みんなで支え合って、多賀城市みんなで支え、担っていくという意味合いからもこのキャッチフレーズが合致していると考えました。

○会長 ありがとうございます。

○委員 キャッチフレーズは考えていなかったのですが、ただ実際に現場で親の姿を見ていると、このキャッチフレーズにすら目を向けない、無関心という親が実際にいるのですが、そういう親に対してどうしたらいいのかというのが大きな悩みで、キャッチフレーズ以前の問題で悩んでいるところです。すみません、いい考えは思いつきませんでした。

○会長 ありがとうございます。

○委員 委員の皆さんがそれぞれの立場で、色々な課題に日ごろから直面されていらっしゃるんで、そういった立場での貴重なご意見だと思います。

私はキャッチフレーズのセンスがないのですが、やはり簡単というか、端的、短いものが良いのかなと思います。先程委員が言われたとおり、お母様、お父様たちが見てくださるかどうかはわからないですが、逆にキャッチフレーズですので、それをつくって皆さんがその言葉に親しみを持って、本当に注目してくださるかどうかは別として、どこかで聞いたなとなれば良いですし、その具体策を、先ほど委員からもお話しがありましたが、計画だけ、理念だけではなくて、具体策を示して、それを私たちがチェックしていくということだと思います。家族の問題など色々ありますが、だからここの会議で、多賀城市としてどうしていくかということをもみんなで知恵を絞っていかなければならないのかなと思っています。

これは私事ですけれども、今、認定こども園の研究をしていて、そのプロセスを本にするのですが、その本のタイトルを色々考えたときに、出会う、つながる、育ち合うという本のタイトルにしました。

そのときに何を考えたかという、それが幼稚園でも保育所でも認定こども園でもサロンでも地域でもご近所でも町内会でも何でも良いのですが、やはりまずは色々な人が出会う、どのような方でもまず出会うところから始まるので、その出会いの場を色々なところにつくっていく、その出会いの中から何か生まれるので、出会うというその機会をつくっていくことが大事で、認定こども園がそのような場になると良いなという思いを込めて、最初に出会うという言葉を入れました。

次に、出会っただけでは何も生まれないので、今度はそれらがつながる、それは親同士であったり、先生と親であったり、色々なところがつながる、そして育ち合うというのは、単に子どもが育つということではなくて、親も育つということです。

それから、私は保育の現場に関わっていることが多いのですが、先生も育つ、それを見ながら、また再び親も育つ、それを見ながら行政の方たちも、やはりこの制度は見直そうとかこういう支援が必要だといって、また意見を出し合って地域としても育つ、個人が育つのではなくて、地域としても育つという中で初めてこういった制度というのは実現していくと思って、出会う、つながる、育ち合うというタイトルをつけました。

多賀城のメッセージとしてどういったものがあるのか、今これだというものはありませんが、目標があつて、そこにただがむしゃらに向かいましょうというよりも、みんながつながって、

少しずつ積み上げていきたいと思いますという、そこに行政として最後は皆さんを受けとめる器がありますというような、そういうイメージがあったらいいなと思っていました。

追加資料の図を、前回から書きかえていただきましたが、矢印が双方向性になっていて、前回は一方向の矢印でしたが、みんなが子どものほうを向いていて、双方向性になったのは良いなと思いました。一方通行で、このように頑張りましょうとか、こうあるべきですと言うのではなくて、双方向でやりとりをしながら地域そのものも育っていくようなイメージになっていくと良いなと思いました。

○会長 ありがとうございます。それでは、皆さんから貴重なご意見等たくさんいただきましたので、ぜひ事務局で基本理念のキャッチフレーズをつくる際に反映させていただければと思います。

それでは、もう一度確認ですが、本日のこの素案に関する意見を12月8日までに、回答用紙で足りない部分はスペースを広げていただいて結構ですので、事務局のほうにお寄せください。審議事項はこれで終わらせていただきたいと思います。それでは、事務局お願いします。

○事務局 ありがとうございます。それでは、以上で審議事項を終わらせていただきまして、次第の3番、その他に移らせていただきたいと思います。

その他としまして、1点ご報告がございます。

前回の会議の際に、量の見込みと確保の方策という事業計画の部分につきましては、ご承認をいただいたところですが、先日、市の意思決定の場で審議を行いました。その結果として、おおむね了承を得たところですが、放課後児童健全育成事業、留守家庭児童学級について意見が出されました。

現在、校舎の増改築を予定している小学校が2校あります。前回の計画上だと27年度に全学校で最低1カ所は留守家庭児童学級を整備するような計画にさせていただいておりましたが、その増改築を予定している小学校につきましては、むやみにプレハブなどを造るのではなくて、その増改築の中でスペースを生み出すというような工夫を考えるようにという意見が出されましたので、前回お示ししました数値から変更になる可能性がございます。

今回の資料には反映できませんでしたので、次回の会議の際に、変更あった箇所については改めてお示しをさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

それから、先ほど会長からもお話いただきましたが、今回の素案に関する意見につきましては、回答様式を準備させていただいておりますが、必ずしもこの様式によらなくても結構ですので、事務局までお寄せください。

最後に、次回の会議ですが、来年の1月14日、火曜日の1時半からを予定しております。日程が確定しましたら、改めてお知らせをしたいと思います。

それでは、閉会の挨拶を磯部副会長よりお願いいたします。

○副会長 委員の皆様、長時間にわたり審議いただきましてありがとうございました。資料が膨大で、議論するにはもう少し細かく見て、今日のご意見を検証してからというようなことがあるのかもしれませんが。今日の事務局からの説明を受けて、それぞれが宿題を持ち帰って、それぞれの立場でもう一度見直していただいて、また意見を寄せていただければと思います。

本日頂戴しました資料の73ページにPLAN、DO、SEEという3つの段階でこの計画をこれから点検、評価していくという提案がありました。私たちは今このプランの段階に立っているわけですが、プランに責任を持った者は、きっとその推進と計画の評価のところにも何らかの形で関わっていくことになると思いますので、私たちは今プランのところに責任を持つ立場にあるということをもう1度確認して、今日は少々早目に終わりますが、その分宿題を持って帰るのだという自覚を持って帰りたいと思います。

いよいよこの会議も終盤に入りまして、多賀城市らしいプランを作成していく最後の段階になりつつありますので、最後、皆さんでもう1度知恵を出し合って、よりよいものをつくっていったらと思いますので、ご協力いただければと思います。

今日は師走の本当にお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございました。

○事務局 ありがとうございました。

それでは、以上で第7回多賀城市子ども・子育て会議を終わらせていただきたいと思います。皆様、お疲れさまでした。